(様式1)

自己評価票

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加えて地域密着型サービスの役割を踏まえた新しい理念を職員全員で話し合いつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を職員全員で共有し、日々のケアの提供場面に活かされるよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	便りを年3回作成、発行しており、家族や地域にホームの理念や役割等について理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2.地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常的に買い物等に出かけて、挨拶を交わしたり、顔馴染みになっている。五戸祭り、文化祭等地域の行事やクリスマス会等保育園の行事に参加し、地域の人々と交流することに努めている。 キャラバンメイト等については、情報不足もある為今後、情報収集していきたい。	○	地域との交流が深められるよう、町内会や近隣の人々とふれあう機会を多くし、日頃のあいさつや気軽に声をかけ合う等日常的なつきあいができるよう取り組んでいきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的について全職員で話し合い理解し、自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価の結果をミーティングで報告し、改善計画を作成し、改善に向けて取り組んでいる。運営者には話し合いの結果等を報告、改善には協力的である。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告とともに、参集者から質問や意見をもらい、サービスの向上に具体的に活かしている。また、外部評価結果を報告し、改善への取り組みについても意見をいただいている。 家族には会議での結果を郵送と掲示にて報告している。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に運営や現場の実情等を伝え、運営やサービスの課題解決の為に協議し、共にサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、学ぶ機会を設け、理解を深めるようにしている。現在、該当者なし。	○	全職員がこの制度を理解できるよう、外部研修や伝達研修を行っていきたい。また、併設の特養ホームからも事例があれば研修会を依頼していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会等で周知されており、虐待防止に努めている。	○	日常の会話の対応が精神的苦痛を与えたり、尊厳を損なう事がないようにスタッフ同士、お互いに注意し合いながら、取り組んでいきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時は重要事項説明書、重度化した場合における対応の指針、看取りについての指針などについて詳しく説明するとともに、不安や疑問を尋ね、十分説明をし同意を得ている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見、不満等を出しやすいように働きかけている。自分の思いや意見を上手に表すことができない入居者には言葉や態度等から、その思いを探る努力をし、日々ケアに活かすようにしている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来園時には声をかけ、健康状態等について報告したり、定期的に便りを発行し、暮らしぶりを写真等で伝えている。金銭管理は出納帳を明示し、家族にサインをいただいている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事へ参加された際は、家族等が意見、不満、苦情を表しやすい雰囲気作りに努めている。 出された意見はミーティング等で話し合い、反映させるようにしている。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の受け入れ等についてミーティングや日々の業務の中で職員の考えや意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を聞き出すようにしている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	生活の時間帯に合わせたローテーションを組んでいる。また、利用者や家族の状況の変化、要望に対応ができるよう、その都度必要に応じて職員の配置を考えている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者、家族、職員の馴染みの関係作り、信頼関係を保つ事を重視し、異動や離職がやむをえない場合も、スムーズに移行できるように配慮している。新しい職員が入る場合も入居者一人ひとりに紹介し、入居者からホームのことを教えてもらうようにしている。		
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修へ随時参加し、その内容はミーティング等を利用し伝達研修している。また、研修の資料はいつでも見られるようにしている。必要に応じて報告書を作成している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者が開催した地域の同業者との意見交換会に参加したり、他グループホームへの見学等の機会を持つことにより、サービスの質の向上に努めている。	○	地域の同業者と交流や連携を強化し日頃の悩みの相談等の機会を増やし、事業者同士協働しながら、質の向上に取り組んでいきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体の旅行やグループホームの職員間の親睦会を行っている。また、日常的に職員の疲労やストレス、人間関係を把握するようにし、緩和できるよう努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の日頃の努力や成果、勤務状況、健康状態を把握し、向上心を持って働けるよう評価を行っている。また、職場環境づくりに努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまで本人、家族の生活状態を把握するようによく聴く機会を作り、本人、家族の思いや不安を受け止め、安心してもらえるように努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人と家族の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返すようにしている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学や遊びに来てもらったり、職員が自宅に出向き、入居の際馴染みの職員が出迎え対応するようにしている。やむを得ず、すぐ入居になった場合は、家族や馴染みの関係者等と相談しながら、安心してもらえるように努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒の暮らしの中で不安、こだわり、喜怒哀楽などの本人の思いに共感し理解するようにしている。また、生活歴の把握に努め、得意とすることを教えてもらったり、その人の力を発揮してもらえるよう場面づくりをし、入居者、職員間で感謝の気持ちを伝え合うようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の暮らしぶりや日常の様子等を細かく伝え、情報の共有に努め、本人を支えていく協力関係が築けてきている。	○	家族の中には、職員に介護をゆだねがちになっている家族もある為、本人を共に支えあえるような協力関係を築けるようにこれまで以上に働きかけていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係をふまえつつ、夏祭り、バーベキュー等の行事に参加して頂き、より良い関係の継続に努めている。また、来園された際は、居心地よくゆっくり過ごして頂けるよう心がけている。	○	疎遠となりがちな家族には、本人の日頃の状態を報告、相談しながら修復に向けてこれまで以上に取り組んでいきたい。また、本人が書いた手紙や季節毎の電話等を含め、取り組んでいきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の商店や市日等に出かけている。デイサービス利用者（馴染みの友人）が立ち寄ってくれたり、こちらから出かけたりする等関係の継続に努めている。	○	職員から働きかけても拒む入居者もいる為、家族等と相談しながら工夫していきたい。また、地域に暮らす知人、友人、馴染みの場所の把握に努めていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係性について全職員が共有できるようにしている。入居者同士の関係がうまくいくように職員が間に入ったり、役割活動を通して入居者同士が助け合う等関係が円滑になるように努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院から退居へ至る方が多い為、退居後に家族からの相談等はほとんどない。	○	契約終了後も継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、培われた関係性を大切に、相談や支援に応じるよう取り組んでいきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に暮らす関わりの中で、入居者、家族との会話の内容や表情等から一人一人の思いや希望の把握に努めている。把握が困難な入居者については家族から情報を得たり、日々の行動や表情等から本人の視点に立って話し合うようにしている。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、関係者等から聴き取るようにしている。入居後も本人の会話や家族から情報を伝えてもらい、これまでの把握に努めている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の暮らしや生活のリズムの把握に努めている。また、日々の心身の変化にも配慮している。。暮らしの中では、出来る事、分かる事の発見に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向と職員の気づきや意見をもとに職員全員で課題となる事を話し合い、利用者本位の介護計画の作成をしている。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実地期間終了前に本人や家族の意向と職員の気づき、意見をもとに話し合い、見直し、立案するようにしている。また、終了前でも状態が変化した場合は随時見直しを行っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録とし、日常の暮らしの様子、家族との関わり、身体状況、排泄、入浴、食事量等を記入し、職員間で情報を共有しながら日々のケアを行っている。また、記録をもとに介護計画に活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、入居者の日常的な健康管理や医療処置を受けながら生活の継続ができている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が安心して地域での暮らしを継続できるように、警察、消防、また地域住民で結成されたハピネス災害協力隊と連携を図っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて地域の他のケアマネージャーや保健師等と連携を図っている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて支援に関する相談、情報交換等の連携を図っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診や通院は希望に応じて対応している。基本的には家族に受診の同行をお願いしているが、都合の悪い時は職員が代行するようにしている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医にお願いしている。また、併設施設の嘱託医(精神科医)の協力を頂いている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師に日常的に、健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。夜間でも当直看護に相談、対応ができる体制となっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、本人に関する情報を提供し、1週間に2回程度、職員が見舞うようにしている。また、家族とも状態等の情報交換を行い、退院支援に結び付けている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合における対応に関する指針や看取りに関する指針について説明している。平成20年7月、家族より看取りの希望があり、家族、主治医、地域医療科、併設施設の看護師、マネージャーを交えて話し合い準備を進めている中、永眠されたためグループホームでの看取りには至らなかった。	○	今回は看取りには至らなかったが、初めてという事で話し合い等を繰り返す中で、反省点や課題がみえてきた為、今後の支援につなげていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者が安心して過ごしていけるように、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全体で話し合い、準備に取り組んで行きたい。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人がグループホームから別の居所へ移る場合、本人の心身の状況、習慣、好み等の情報を詳しく伝え、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊厳し、呼び方や声掛けには常に注意しており、居室へ出入りする際は必ず声掛けをしている。個人に関する記録等は入居者や訪問者の目に付くところには放置せず、スタッフルームに保管し、個人情報の漏洩防止、プライバシーの確保に努めている。	○	職員が入居者一人ひとりの誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応になっていないか、日常的な確認と改善に向け取り組んでいきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせた声掛けをし、食事のメニュー、買い物、入浴日等本人が選びやすい場面作りをしている。また、意志表示が難しい方は表情や反応を読み取りようにしている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身の状態に合わせ、寝る時間、起きる時間、食事時間、散歩、おしゃべり等柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの希望、好み、生活歴に応じて選べるように支援している。理美容院については希望に応じて家族や職員の付き添いを行っている。また本人、家族の希望で併設施設に来ている理容室を利用している方もおられる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは入居者と相談しながら決めるようにしている。食事の準備、盛り付け、片付けは入居者と一緒に行い、食事をする際は同じテーブルで楽しく食べる事ができるように努めている。ホームの畑から一緒に採ってきた旬の野菜もメニューに加えている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を理解しており、それらを楽しめるように支援している。たばこに関しては、決められた場所で希望に添って吸えるようにしている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記録して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けや誘導をすることにより、トイレで排泄ができるように努めている。日中はパンツにパット、夜間はリハビリパンツと使い分けしている方もいる。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴の順番、長さ、回数は一人ひとりの希望に合わせるようにしている。また、入浴習慣を把握し、つかりすぎや洗身等に対してさりげなく声掛けや対応をしたり、毎月1回夜間の入浴支援を試みている。入浴を拒む方に対しては、言葉がけや対応の工夫をしたり、日時を変えて入浴を促す等の支援をしている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの疲れ具合、体調、表情、希望を考慮し、心身の状態に合わせた休息がとれるように支援している。一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、日中の活動性を高めるなど安眠につながるようにしている。また、寝つけない方には、温かい飲み物を提供したり、話し相手となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴等から炊事、片付け、洗濯物たたみ、花壇、畑、掃除、趣味活動等一人ひとりの経験や知恵を発揮してもらえるような場面作りに努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、一人ひとりの希望や力量に合わせて、お金を所持している方もいる。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や入居者の体調を確認したうえで、散歩、町内の商店やスーパーでの買い物、市日等に出かれられるように支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出を拒んだり、不安をいだいている方の家族と相談し、家族が同行して下さる事で海遠足に出かけることができた。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることができなくても職員がダイヤルを回したり、かかってきた電話を取り次ぐことにより会話ができる為、希望に応じて支援している。状況により職員は席を外すようにする。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽にいつでも訪ねやすい雰囲気作りを心掛け、気兼ねなくゆっくり過ごしてもらうように配慮している。面会時間は設けているもその時間以外の面会も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備し、内容についても勉強会等に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	定期的な禁止の対象となる具体的な行為について話し合い、自覚しない身体拘束が行われないように取り組んでいきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関にかぎはかけず、自由に出入りできるようにしている。玄関にはドアベルを設置し、外出しそうな様子を感じた時は、さりげなく見守るようにしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はほとんどスタッフルームにいることはなく、台所は対面式になっており、常に見守りできる場所にいるようにしている。夜間は2時間ごとに入居者の様子を確認するとともに、起きてきたときにすぐ対応できる場所にいて、安全には特に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や刃物は鍵付きの決まった保管場所で管理する取り決めがある。入居者一人ひとりの状況に合わせ、あわなくなった場合は再検討している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から考えられる危険を検討し、未然に事故を防ぐ為の工夫に努めている。万が一、事故が発生した場合は事故報告書を作成し、その時の状況をふり返り原因分析と再発防止対策を話し合い実施している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルあり。内部の勉強会や救命救急等の研修会に参加し、周知されている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の協力隊の協力を得て避難訓練、避難場所、消化器の使い方などの訓練を定期的に行っている。また、非常用の食材の準備をしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、家族に説明相談し、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の状況を職員は把握しており、食欲、顔色、様子等に変化が見られた時は、バイタル測定し、記録をすると共に情報を共有し対応している。状況によっては併設施設の看護に報告、相談し医療受診につなげている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は処方箋で把握し、個人ケースへ綴じていつでも確認できるようにしている。薬は職員が管理し1回ずつ手渡し服用まで確認している。 薬の服用により本人に変化がある場合は、家族、看護職員、医師に連絡している。薬の変更ある際は、業務日誌に記載し、全職員で周知している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて、食事、飲水量、活動量等一人ひとりに合わせて実施している。下剤を使用した場合は排便の観察をして、併設施設の看護職員に相談しながら、個々に合わせた使用量、頻度となっている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの能力に合わせ、うがい、歯磨き、義歯洗浄の見守り、声掛け、介助を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作り、一人ひとりの残食量からおおよその摂取量を把握している。入居者の体調によっては、食事や水分の摂取量のチェック表を作成し記録している。また、併設施設の管理栄養士から栄養摂取状況等についてアドバイスをもらっている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルあり。研修には随時参加し、周知されている。インフルエンザは入居者、家族に同意を頂き、職員共に予防接種を受けている。ペーパータオルの使用、外出後、食事前にはうがい、手洗いの支援を行い、日々の予防にも努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルがあり、それに基づいて実行している。新鮮で安全な食材を使用する為、食材には購入日を記入し、毎日冷蔵庫、冷凍庫の点検を行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、手作りの新聞受けや観葉植物を置き、入居者の作品を飾っている。玄関まわりにはプランターを置き、畑では花や野菜を作り家庭的な雰囲気作りを努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、居間、食堂とつながっており、ソファーやこたつを置き、廊下には入居者の作品を飾る等、居心地のよい場所になるよう配慮している。食事のにおい、家事の音は自然と聞こえる。 季節の花、野菜は畑で栽培し、花は居間や食堂に飾り、野菜は献立に採り入れている。また、季節を感じるような作品作りをしたり、歌を歌う等して季節感を意識的に採り入れるように工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、食堂、入居者の居室等、気の合った人同士自由に行き来している。ベランダにはテーブルといすを置いている。喫煙者の為、喫煙場所を確保している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、入居後と家族に使い慣れた生活用品の持ち込みを呼びかけており、写真やテレビ、ソファー等が持ち込まれている。入居後その人らしい部屋作りを行っている方もいる。また、自分で作った作品や好きなタレントのポスターを飾る等本人が居心地よく過ごせるよう努めている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調節は各居室、居間に温度計を置き、入居者に確認しながら行っている。冬場には床暖の為、各居室にて温度差があり、居室によっては電気ストーブを使用し、細めに温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを設置している。浴室については入居者に合わせて浴槽台、取り外し可能な手すり、すべり止めマットを利用している。流し台は入居者に合わせて低くなっており、使いやすくなっている。玄関にもイスを設置し、腰掛や移乗台として活用している。また、入居者の状態に合わせ、生活環境の見直しを行っている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極めて不安や混乱を招くような環境や物品について話し合い状況に合わせて工夫している。状態が変わり新たに不安や混乱が生じた場合は、その都度話し合っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	食堂、居間、居室の前に畑があり、花や野菜が植えられており、日常的に楽しみながら活動したり、花を見ることができる。ベランダにはテーブルとイスを置き、日向ぼっこ等ができるようになっている。		

(部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点･アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)